戯れ

激しく打ち寄せて砕け散り
砂を巻き上げて抱き込み
かき回しては放り投げ
うねり、のたうち回るグレーの波
遠くに広がる分厚い雲
嵐がやってくるのだ

（あの時のそれとは違う）

あの時は
音もなく、しかも素早く近付いてきた
あまりに碧く美しい色彩と透明さを保ちながら
それは雲が渡ってくる如くに静かだった
風も、空も、いつもと変わりなく
あたかも何も起きるはずがない、というような
そんな表情のままだった
それが———
一瞬のうちに港街に乗り上げて崩れ
貪欲で猛々しい真っ黒な濁流となって
あらゆる事物を飲み込み
ばりばりという音をたてて噛み砕いたのだ
それはまるで
「ちょっとした悪戯に過ぎないのだ」
と、そんな顔をしていた、と思う

（嵐が来る）

波は戯れるような無邪気さではしゃぎ
あたりに霧のような飛沫をまき散らして

私をずぶ濡れにし
対話をしようじゃないか、とくすぐる
ちょっと遊ぼうじゃないか、と笑っている
あの時は楽しかったよ
また遊ぼうじゃないか、と

（いや、お前は、あの時と何も変わらない
ただ、遊びたかっただけなのだろう
お前を愛しむことを忘れていた我々と・・・
ただ、それだけのことだったのだ）

私は彼と一定の距離を保ちながら歩いた
ただ耳を澄ませて

(2011.8.31)